

伊藤鶴代 極貧のなか、独力で道を開き、地域の教育者として大成した。

いとつるよ

明治維新・1868 = 出羽国鶴岡日和町で、伊藤雄二郎・直代の長女に生まれる。

伊藤家は幕末の碩学鳳山の出た家で、婿養子雄二郎は、進歩主義者で"庄内自由民権の祖"といわれた。

明治6年政変 1873 = 5歳 :

西南戦争・1877 = **9歳** :

大久保暗殺 1878 = 10歳 : 鶴岡明倫小学校に入学するとともに、裁縫を習い始める。

明治14年政変 1881 = 13歳 :

父は、さまざまな事業に挑戦しては失敗を繰り返し、そのダメージが原因となって、

帝国大学始・1886 = **18歳** : この頃、父が失明し、母も病床に臥せる事態に、幸せな少女時代が急に暗転、
国民之友始・1887 = 19歳 : 母は死去。一家の柱となるべく、父の看病をしながら、裁縫の内職を始め、注文を受けながら研鑽を重ね、やがて人に教えるようになる。弟恭太郎に医学校に進める学資まで渡し、

帝国憲法発布 1889 = 21歳 :

大本教・1892 = 24歳 : 弟が東京医学校済生学舎を卒業して、
郡司千島探検 1893 = 25歳 : **医師資格をとるまで支援、孝子として県知事表彰。**

日清戦争始・1894 = 26歳 :

日清戦争終・1895 = **27歳** :

八幡製鉄始・1897 = 29歳 : ***鶴岡高等女学校が設立されると、裁縫教員として雇用され、広く教育のことを学ぶ機会となるが、**
子規句歌革新 1898 = 30歳 : 父病篤くなり、退職して、再び内職で生計を立てる一方、漢学者芳賀剛太郎に師事、

日露戦争始・1904 = **36歳** : 庄内婦人会の夜学校で裁縫を教え始め、

日露戦争終・1905 = 37歳 : 父が死去して、

満鉄発足・1906 = 38歳 : 再び、鶴岡高等女学校の裁縫教員となる。

韓国併合・1910 = 42歳 : ***思うことあって退職し、家塾を開く。夜学校での教員は辞めず、**

第1回門下生は、郷里では有名な夫人たちで、生徒はどんどん増え続け、向かいの建物を借りて拡大。

明治天皇没・1912 = 44歳 : ***再び、孝子として県知事表彰。**

大正政変・1913 = **45歳** :

その根底に深い仏教信仰があったことから、

大正11年条約・1919 = 51歳 : **後援会として、自らを会長とする庄内仏教婦人会が結成され、**
大暴落・1920 = 52歳 : **卒業生たちが{如蘭会}という会を組織し、毛筆での会報も発刊。**

原敬首相暗殺 1921 = 53歳 :

水平社結成・1922 = **54歳** :

関東大震災・1923 = 55歳 : 夜学校での教員はこの年まで続ける。

護憲三派圧勝 1924 = 56歳 : {如蘭会}で、裁縫塾の設立を決議、直ちに趣意書を作り、資金募集にかかる。

治安維持法・1925 = 57歳 : ***屋敷を借りて、早くも{私立鶴岡裁縫学校}として開校し、校長に就任、**

円本時代始・1926 = 58歳 : **認可される。**

入学志願は年々増加して増築も間に合わず、

満州事変・1931 = **63歳** : ***新形に1530坪の敷地を購入して、250坪の校舎を建築したが、労苦のため、病臥するようになり、**

国際連盟脱退 1933 = 65歳 : **没した。**